

令和6年度 大学学長と区長との懇談会 次第

日 時：令和6年11月7日（木）午前10時

会 場：日本大学文理学部 本館2階 会議室A・B

1 開 会

2 区長挨拶

3 日本大学文理学部長挨拶

4 議題

（1）持続可能な未来に向けた目指すべき姿について

5 閉会

「持続可能な未来に向けた目指すべき姿」に関する調査回答一覧

大学名/質問内容	貴大学が目指す姿や理念、コンセプトについてご記入ください。	貴大学の目指す姿等の実現に向けて必要な取り組みや視点、展望などの考えをご記入ください。
国土舘大学	計画が進行している「国土舘キャンパス環境整備計画」(校舎の建替え)にコンセプトが集約されていることからその要点を述べます。それは、持続可能な社会の実現に寄与するため、環境負荷の少ないキャンパス整備を実行すると共に、学生が日常生活から環境問題を学ぶ教材としての役割を担う、サステナブルキャンパスの実現にあります。 具体例 ○ 省エネ対策によるキャンパスの脱炭素化の推進 ○ 緑豊かな環境整備を実行し、健康的、かつ良好な学修環境の創出 ○ 資源循環による環境負荷の低減(雨水の利用、リサイクル建材等の利用)	計画が進行している「国土舘キャンパス環境整備計画」(校舎の建替え)にコンセプトが集約されていることからその要点を述べます。それは、持続可能な社会の実現に寄与するため、環境負荷の少ないキャンパス整備を実行すると共に、学生が日常生活から環境問題を学ぶ教材としての役割を担う、サステナブルキャンパスの実現にあります。 具体例 ○ 省エネ対策によるキャンパスの脱炭素化の推進 ○ 緑豊かな環境整備を実行し、健康的、かつ良好な学修環境の創出 ○ 資源循環による環境負荷の低減(雨水の利用、リサイクル建材等の利用)
駒澤大学	本学は、「仏教」の教えと「禅」の精神を建学の理念とする大学である。 これを実現するために、「しなやかな、意思。」「Learn Actively. Live Wisely.」というブランドスローガンを掲げ、十分な基礎力・実践力を身につけ、多様な経験を踏まえ主体的に行動できる力を備え、しなやかで折れない心を持ち、持続可能な社会の発展に寄与する人材の育成を行うことを本学の教育の理念としている。	地域社会の課題に焦点を当て、その解決と実践に向け、授業・研究・課外活動等を行ってきた。しかし、地域と学生との関わりは、仲介者がいなくなってしまうことで一過性に終わることもあることから、大学は、自治体、地元産業界など地域社会との協力関係を強化し、持続性をもってつなぐコーディネータとしての役割と仕組みが求められるとの意見もいただいている。 駒澤大学社会連携・社会貢献に関する基本方針に則り、地域との連携を強化し、より良い地域社会を築いていくことを大学の使命と考え、その貢献に邁進したい。
産業能率大学	1920年に日本初のコンサルテーションを行った創設者上野陽一の理念に基づき、マネジメント領域の理論と実践力を携え、新たな社会の枠組みを創る担い手となって多方面で活躍する人材の育成を目指す。すなわち、知識は実際に役立ってこそ価値があるという教育理念のもと、小規模ではあるが、実学教育の先駆者として学生のニーズに適した能動的学修を支援する教育改善を日々教職協働にて行うことを是とし、地域・社会への貢献を積極的に推進する。また、学生教育事業と社会人教育事業が連携し相互に補完することにより、実践に裏付けられた教育内容と研究成果を社会に提供する。	・現場で問題を発見し、理論を活用して課題を解決する 理論と実践を組み合わせたカリキュラム編成を前提に、学生が協働して学んだ知識実践に生かせるフィールドを得て、継続的に活動を展開し、そのフィールドでの貢献度を高めることができるようPDCAを回すサイクルを定常化する取り組みを行っている。 ・圧倒的なリアリティ 企業出身の教員比率73.5%、プロフェッショナルからリアルなビジネスを学び、実践力を身につける。
昭和女子大学	本学は1920年に創設されて以来「世の光となろう」という目標を掲げて女子教育に邁進してきた。「善き個人」とであると同時に、すすんで世のため人のために自己の力を役立てようとする「善き社会人」を育成・輩出することが本学の使命である。 近年は、「世界とつながる」「地域とつながる」「未来とつながる」というコンセプトの下、グローバル教育、地域連携・プロジェクト型教育、キャリア教育に力を入れている。	本学では1980年代から、人見記念講堂での講演会や演奏会を学生に提供し、専門分野のみならず幅広い知識や文化に触れる教養教育を展開している。 グローバル教育では、本学の米国ボストン校をはじめ世界に広がる協定校を活用した海外研修に加え、国内でもTUJとの連携・共修などグローバル能力向上のためのプログラムを提供している。 キャリア教育では、キャリアデベロップメントを自ら考えられることを目標にした教養教育とメンター制度などを利用した個別最適化した支援を行っている。 さらに地域や企業と連携したプロジェクト・ベースド・ラーニングにも注力している。

大学名/質問内容	貴大学が目指す姿や理念、コンセプトについてご記入ください。	貴大学の目指す姿等の実現に向けて必要な取り組みや視点、展望などの考えをご記入ください。
成城大学	○ミッション 成城大学は個性の暢達を主眼として、広く専門の学芸を研究教授し、広角の視野と高度の教養を具え、かつ、豊かな個性を持つ社会の先導者を育成するとともに、文化の発展に貢献することを使命とします。(大学学則 第1条より) ○ビジョン 成城大学は、将来にわたっても、「所求第一義」の精神に則り、真理を究める研究を行うとともに、各人の個性を大切にすることによって、独創性と協働性を培い、未来を切り拓くことのできる人材を育成します。 ○成城大学の教育 ・親密な対話や交流を重視した少人数教育を維持しながら、オンライン等を活用した新しい教育方法を開発します。 ・高度な専門教育とともに、国際教育や新しい教養教育を全学的に展開します。 ・上記の教育を適切に実施するため、教学マネジメントを推進し、教育改善に取り組みます。	成城学園における個性尊重の教育を「変化にも柔軟に対応するしなやかな知性」「新たな創造に挑戦する意欲」「人、物、ことに共感する心」を育む教育の実践とし、大学では、この教育の実践を「考える力」「感じる力」「行動する力」「つながる力」「心身の力」からなる総合的な「人間力」の育成と位置づけ、そのためのさまざまな取り組みを中期計画として策定しました。そして、本学の大学運営においてまず重視すべき価値観は、学習者(学生)を起点に考える学習者中心の考え方です。ここで言う「学習者中心」とは、学習者の立場に立つということです。また、大学として次に重視すべき価値観は、個性尊重です。成城といえば、個性尊重の教育であるが、個性尊重にはふたつの意味があります。第一は、自らの個性であり、天分を伸ばす、といった個々人の学びのスタイルを尊重するという意味で、第二は、他者の個性の尊重であり、ここからは多様性の理解や包摂性という SDGs 的な価値観につながります。大学は、失敗を通じて学ぶ場であると考え、失敗を振り返り、再挑戦するというサイクルを回して学ぶのは「経験学習」の手法です。これによって、正課、正課外を問わずさまざまな学習経験から多くを学ぶことが可能となります。本学での学びは、教室に閉じてはおらず、これからも、地域、社会、産業界などのさまざまな連携を通じて、良質な経験を学生に提供することにより、学生が成長できる機会を増やしていきたいと考えております。
多摩美術大学	【世界に存在感のある美術大学にする】 近年、社会に対して大学が担うべき役割は大きく変化してきている。グローバリズムの波が押し寄せる一方、地域への貢献が強く期待されており、また AI の飛躍的な進展によって産業構造も流動化しつつある。芸術系大学である本学も当然ながらそうした状況に柔軟かつ大胆に対応していかなければならない。長い伝統の中で培われてきた安定した基盤を踏まえ、芸術の王道を行くという矜持を保ちつつ、新たな時代を先導的に切り開いていく人材を育成することが使命だと考えている。	① 世界に存在感のある美術大学 ・教育の質が国際的に認められている ・優秀で多様な学生が国の内外から集っている ・学生がグローバルな成長と達成を実感できている ・卒業生が新しい価値を創り出し、国際的にも評価されている ② 我が国の美術教育をリードする大学 ・優秀で多様な学生が集い、卒業生が美術界・社会に貢献している ・高い専門性と総合性を融合したカリキュラムが提供されている ・優れた教授陣による質の高い授業が提供され、公正な評価が保障されている ・トップクラスの教育条件が提供されている ③ 社会の信頼と期待に応える大学 ・構成員の生命・身体・権利が保障されている ・法令の遵守と合理的・効率的なマネジメント ・大学内外との対話により風通しの良い運営がされている ・評価と改善による自己革新が行われている
テンプル大学	テンプル大学日本校(TUJ)は、アメリカの高等教育の伝統と現代的な実践に基づき、日本で優れた教育を提供することに尽力しています。TUJは学生を優先し、絶えず変化するグローバルな職場で想像し、探求し、成功するためのツールを提供することを目指しており、多文化で包括的な環境の中で真に国際的な教育を提供しつつ、フィラデルフィアのメインキャンパスの価値観、厳格さ、コミュニティ精神を大切に、学習者の利益のために、TUJは異文化間の架け橋を築き、高等教育の国際化を推進することも目指しています。☒	今日の高等教育の世界では、持続可能性は柔軟性、革新、そして協力に依存している。TUJは、未来の職場に向けて、今日の学生のニーズに応えるよう努めている。生涯学習を支援する方法もさらに見つけるべきと考える。TUJは、日本の教育界で独自の役割を果たし続けるとともに、影響力を強化し、評判を高めるよう努める。重要な戦略として、次のものが含まれる。 優れた学生体験 学生を第一 すべての従業員が教育者 質の高い学術体験と革新的な教育 グローバルキャンパス、グローバルコミュニティ

大学名/質問内容	貴大学が目指す姿や理念、コンセプトについてご記入ください。	貴大学の目指す姿等の実現に向けて必要な取り組みや視点、展望などの考えをご記入ください。
東京医療保健大学	本学は建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」に則り、「時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える医療関係の課題に対して、新しい視点から総合的に探求し解決できる人材の育成」を教育目標としており、教育、研究とともに社会貢献を本学の重要な使命としています。	左に記載した使命を達成するため、医療系の大学として教育・研究の充実・発展を図るとともに、医療・健康・保健面での社会貢献を積極的に推進し、地域との連携・協力を組織的に推進するため、本学では以下の動きを推進しています。 ◆本学の教育・研究に係る成果を基にした社会へのサービス活動及び社会貢献の一環として、地元の区等との連携・協力により医療・健康・保健をテーマとした公開講座を積極的に開催する。 ◆医療系の大学に学ぶ学生として、社会貢献・社会活動に関する意識の涵養を図り地域社会との交流を深めるため、医療等に関わるボランティア活動及び地元の行事等に参加して地域との交流を深める活動等への積極的な参加を推進する。 ◆本学の教育・研究の活動状況等について、ウェブサイト等による情報公開を積極的に推進するとともに、社会からの意見・要望等を真摯に受け止め適切な措置を講ずる。 ◆地域社会に開かれた大学として大学の施設の開放及び図書館利用の拡充に努める。 ◆本学は、医療・健康・保健面において地域を指向した教育研究活動を推進するとともに、地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在としての機能強化を図る等、医療系の大学として社会の活性化に資する役割を担うこととする。更に今年度より地域コミュニティの中核的存在機能として、“公開講座”や“幼児向け食育活動”、“測定機器を用いた健康チェック”等の知の還元につながる企画を行う「世田谷フェスタ(地域交流イベント)」を開催しています。
東京都市大学	ボーダーを超えて、学生と教職員がともに考え、学び、行動することで社会に貢献できる人材を育てる。本学の永年の専門的実践教育と研究の実績をふまえ、その成果を広く社会へ還元し、地域社会との信頼関係づくりと連携活動を推進することで、問題解決に貢献し、教職員による社会貢献活動の一層の活性化と学生主体の社会貢献活動を推進するための支援体制の強化を目指し、4つの地域連携基本方針を定めている。	1に記している、「東京都市大学地域連携基本方針」を基にその成果を広く地域社会への還元を目指している。 1. 教育・研究成果の社会への還元 2. 社会の諸機関や地域と連携した活動の推進 3. 学生の地域活動支援 4. 地域連携に係る大学間連携の強化
東京農業大学	本学は、時代及び社会ニーズの変化を見据え、建学の精神「人物を畑に還す」、教育研究の理念「実学主義」が目指す、未来の地球、人類社会づくりに貢献する「農の心」を持つ人材を育成する。 ■https://www.nodai.ac.jp/about/guide/policy/	東京農業大学が掲げる建学の精神「人物を畑に還す」、教育研究の理念「実学主義」が目指す、未来の地球、人類社会づくりに貢献する「農の心」を持つ人材を育成するとともに、教育研究の成果を通じ、生涯教育、産業・文化、人類社会の安定と発展に貢献する方針を定め、産学官連携及び地域連携の推進により、社会に対し多様な機会を提供し、豊かで充実した生活の創造に資することを目的としています。 目的を達成するために、「産学官・地域連携ポリシー」に基づき次に掲げる業務を行っています。 1. 総合研究所による産学官・地域連携に関する戦略的な企画と推進 2. 企業、自治体、農業団体、官公庁及び研究機関等との包括連携に関する事項 3. 連携の発展に必要な外部資金獲得の推進 4. その他、前各号に関連する事項 ■https://nodai-nri.jp/overview/cooperation ■https://nodai-nri.jp/application/files/6116/8480/9302/Dong_Jing_Nong_Ye_Da_Xue_Cha_n_Xue_Guan_Di_Yu_Lian_Xi_porishi_.pdf

大学名/質問内容	貴大学が目指す姿や理念、コンセプトについてご記入ください。	貴大学の目指す姿等の実現に向けて必要な取り組みや視点、展望などの考えをご記入ください。
日本女子体育大学	日本女子体育大学は、建学の精神である「体育を中軸に据えた全人教育」を土台に、現代社会の諸問題の解決に向けて、本学の特長を基に持続可能な社会の作り手となる女子学生を育成し世に送り出すことを目標の一つとしています。 本学は、二階堂トクヨの建学の精神「体育中軸に据えた全人教育」を受け継ぎ、「体育に関する高度の科学研究教授を行い、有能な女子体育指導者等を養成するとともに教養高き社会人を養成し、体育の普及発展に寄与することを目的とする。」を基本理念としています。	SDGsの17目標のうち、本学が現在、主に関わっているのは、健康と福祉、質の高い教育、ジェンダー平等、住み続けられる街づくりなどです。これらの具体的な貢献を増やすことを目指しています。
日本体育大学	真に豊かで持続可能な社会の実現には、心身ともに健康で、体育スポーツの普及・発展を積極的に推進する人材の育成が不可欠であるという建学の精神がある。この建学の精神を踏まえ、地域の課題やニーズを把握し、より良いスポーツ環境の構築、地域防災への協働などを通じて、自治体や教育機関等と連携・協力を積極的に展開していきたい。	心身ともに健康で体育スポーツを多角的に捉えるために、この10年間で学部を複数新設させ、体育スポーツ分野に加え、教育、医療分野まで多様な学問領域を複合的に学ぶ体制を整えてきた。 その中でも、国内外の様々な機関・自治体と連携し、子どもから高齢者まで様々なステークホルダーに対して、本学の教育・研究活動の成果、人的・知的資源の還元を行っている。
日本大学 文理学部	『自主創造』 教育の観点から、本学の有する豊かな教育リソースを礎として学生ファーストの運営を行うことによって、自ら学び、自ら考え、自ら道を拓く自主創造の力を有し、流動化したこれからの社会をリードする人材を育成するというコンセプトである。また、研究の観点からは本学の有する多様な学問領域を融合させることで、地域から国際社会まで幅広く持続可能な社会の実現に貢献できる研究を推進し、学生はもちろん広く社会から支持される大学を目指している。	『文理融合』 自主創造の力を有する学生の育成と、多様な学問領域の融合を目的として、文理学部18学科の学生が分野を超えて交流する総合教育科目や、学生の興味や希望に応じて幅広い分野を学ぶことができる副専攻制度の実施といった文理融合を目指した取り組みを行っている。 今後の展望として、文理学部の現在の18学科はダイバーシティとアイデンティティのもと文理融合を実践し、多様化し複雑化した現代社会の要請に応えて「文理複眼」的な思考のできる人材を育成するために、文理学部の学際性を活かし、高等師範科を前身とした高校までの教育との親和性を踏まえて、文理学部が高校から本学15他学部までを接続するハブとなり、日本大学の総合知を創出する取り組みを進めている。
日本大学 商学部	日本大学商学部は、日本大学の教育理念である「自主創造」の精神に基づき、商学・経営学・会計学の修得を通じて、実学としてのビジネスに関する幅広い知識と教養を身に付け、社会環境の変化に対応できる人材の育成を目指しています。	【商学部社会連携センターの運営】 商学部教員がこれまで得た研究成果等を利用し、産学官における社会連携を推進します。この取り組みは、地域振興や社会の発展に大きく寄与し、大学の社会的価値を高めることが可能となります。具体的には、在学生、校友、社会人等に向け新しい学修機会を提供し、実学を学ぶことにより受講者への生涯価値の増大に向けての支援体制の整備を行います。 また、大学を取り囲む利害関係者全体の満足が向上するようなビジネスアドバイスを中心とした支援を行う予定です。 【ダイバーシティ&インクルージョンの推進】 教育環境や職場内及び地域社会において、ジェンダー、人種、民族、年齢、障がいの有無など異なる背景を持つ人々がお互いを尊重し、理解しながら共存することにより、新たな価値が創造されると共に生産性の向上にもつながると考えます。このような価値観について学生・教職員が理解を深められるよう、学内の様々なチャンネルの講習会を利用して啓発しています。

大学名/質問内容	貴大学が目指す姿や理念、コンセプトについてご記入ください。	貴大学の目指す姿等の実現に向けて必要な取組みや視点、展望などの考えをご記入ください。
日本大学 危機管理学部	日本大学危機管理学部の教育の目的と目標 危機管理学部は様々な社会的危機に柔軟かつ的確に対応できる「危機管理パーソン」の養成を教育、研究の目的としています。「危機管理パーソン」に求められる能力は「リーガルマインド」と「リスクリテラシー」です。この2つの側面を涵養することが危機管理学部の教育目標となります。 人権や自由、人道主義、ダイバーシティを重視する民主主義に資する危機管理学のリベラル・アプローチを追求します。	①地域連携 本学の教育研究活動の多様な成果を地域へ還元するとともに、新しい知見を吸収するために、世田谷区をはじめとする自治体や地域との連携・交流を推進する。 ②高大連携 本学の研究開発能力・人材などを活用し、高等学校の学校研究に連携・協力することにより高等学校における教育内容の充実・発展を図るとともに、将来の有意な人材の育成に寄与する。 ③産官学連携 日本大学産官学連携ポリシーに基づき、産官学連携を推進する。 ④国際連携 多様な文化を尊重し、共生社会を実現するため、国際交流活動を促進するとともに、海外の協定校の拡充やニューカッスルキャンパスの活用を通じて、その成果を国際社会へ発信する。
日本大学 スポーツ科学部	日本大学スポーツ科学部の教育の目的と目標 スポーツ科学部では、「競技スポーツにおける実践力のある反省的実践家」を育成するため、1年次より競技スポーツ学の基礎を学ぶと同時に学びの重点を「アスリートコース」か「スポーツサポートコース」の2コースいずれかに置きながら、専門教育のみならず教養教育を十分に踏まえた総合的かつ学際的な教育を行います。	①地域連携 本学の教育研究活動の多様な成果を地域へ還元するとともに、新しい知見を吸収するために、世田谷区をはじめとする自治体や地域との連携・交流を推進する。 ②高大連携 本学の研究開発能力・人材などを活用し、高等学校の学校研究に連携・協力することにより高等学校における教育内容の充実・発展を図るとともに、将来の有意な人材の育成に寄与する。 ③産官学連携 日本大学産官学連携ポリシーに基づき、産官学連携を推進する。 ④国際連携 多様な文化を尊重し、共生社会を実現するため、国際交流活動を促進するとともに、海外の協定校の拡充やニューカッスルキャンパスの活用を通じて、その成果を国際社会へ発信する。
明治大学	明治大学においても、大学の基本的な役割は、「教育」、「研究」、「社会貢献」の3つの柱からなると考えています。大学はこれまでも「教育」と「研究」というその本質的活動を通じて、人材育成や研究成果の還元など、一定の社会貢献を行ってきました。しかし、激動する社会の中にあってますます複雑化している諸問題を、知の拠点である大学の有する人的資源・知的資産・ネットワーク等を活かして、より直接的に解決していくことが、より一層期待されていると考えています。	2010年に設立された「明治大学社会連携機構」において、「地域連携推進センター」と「リバティアカデミー」を両輪に、学内諸機関の社会連携・社会貢献活動のハブ的存在として、特色ある事業を展開しています。具体的には、「地域連携推進センター」では、国、地方公共団体、産業界及び地域住民等からの幅広い要請に応え、連携事業を推進しています。また、「リバティアカデミー」では、リカレント教育やリスキリングを含む社会に開かれた生涯学習の機会を提供しています。

「持続可能な未来に向けた目指すべき姿」に関する調査回答一覧

大学名/質問内容	①貴大学の理念等を実践できた連携事例がありましたらご記入ください。(任意回答、2事例まで)	②貴大学の理念等を実践できた連携事例がありましたらご記入ください。(任意回答、2事例まで)
国士舘大学	世田谷区と理工学部まちづくり学系が「みどりと花いっぱい協定」を結び、世田谷キャンパス周辺のプランターや花壇への花苗植え込みと管理の実施 	政経学部3ゼミによる梅ヶ丘商店街と連携した「ゴミゼロゲーム、エコダンス教室、エシカルショップ、フードドライブ」等々を介してSDGsを実行する商店、並びに消費者としての意識改善のための協議実施 
駒澤大学	社会連携・社会貢献にかかわる学生・教職員の活動への支援を目的とした学内公募型の助成「駒大生社会連携プロジェクト」を実施。その中で令和5年度は、世田谷区ACP普及啓発のためのデザイン、せたがやのコミュニティ活性に関する基礎研究など、8件を採択。各プロジェクトの成果は、ニュースレターとして大学Webサイトで公開した。	世田谷地域「地域交流ラボ」の一つとして「防災コミュニティラボ」を実施。ゼミでの研究成果を踏まえ地域に合った防災イベントを企画・実施した。
産業能率大学	・地域連携科目「グローバル・コミュニケーション・キャンプ [アドバンスト]」:日本を代表するグローバルIT企業である楽天グループ株式会社・世田谷区・産業能率大学の協働で実践する体験型プログラムである。最新のワーク環境を備えた楽天クリムゾンハウス(本社)で、海外出身社員と英語でコミュニケーションをはかりながら地域の課題解決プロジェクトに取り組む。学生たちにグローバルなビジネスの経験や英語コミュニケーションスキルの向上、地域社会への貢献という3つの機会を提供することを目指している。	・喫茶JOYの経営支援:世田谷産業プラザ1階にある、NPO法人JOYが運営する喫茶店の経営支援を、公益財団法人世田谷区産業振興公社とともにに行っている。見やすいメニューの店内掲示作成から、メニュー表にフリガナを付け、スタッフ、利用客ともに利用しやすいメニュー表などを手がけたほか、一時的な支援にとどまらず、ゼミ内で後続の学生に支援を引き継いでいる。NPO法人は手を付け難いDX化の恩恵を受けるとともに、学生は学び触れる機会の少ない分野を知ることになり、相互にプラスの効果が上がっている。
昭和女子大学	①グローバル教育;「TUJ-SWUダブル・ディグリー・プログラム」 このプログラムは、本学で2年半から3年学んだ後、敷地内のテンプル大学ジャパン(TUJ)キャンパスで2年間学び、両大学の学位を取得するものである。 参加者のほとんどが高校までの留学経験はないが、入学後から始まる集中的な語学カリキュラムなどを経て、TUJに正規入学できる学力を身につける。非常にハードなプログラムであるが2022年には1期生4名が、2023年には2期生5名が、2024年には3期生8名の学生がテンプル大学を卒業した。本学に戻り卒業認定を受け、2つの学位を授与されている。	②本学における社会連携・社会貢献推進の体制 現代ビジネス研究所を設置し、プロジェクト活動やシンポジウムを通じて、学生、地域、企業の皆さまとの連携・社会貢献の取り組みを支援している。 その一つ、世田谷区に拠点を置くラグビーチーム「リコーブラックラムズ東京」と協働し、ラグビーを通じて世田谷区の地域活性を目指すプロジェクトがある。毎年20名程度の学生が参加し、SNSでの情報発信、グッズの企画から販売、イベント企画などを実施している。 これらのプロジェクト活動については学生の自主参加であるが、学生達が、主体的に目標を設定し、自立的に問題解決・意志決定・情報探索にのぞみ、目標に向かってやり遂げる力、協業先との連携を通じた企画力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力等を身に付けるために重要な活動として位置づけている。

「持続可能な未来に向けた目指すべき姿」に関する調査回答一覧

大学名/質問内容	①貴大学の理念等を実践できた連携事例がありましたらご記入ください。(任意回答、2事例まで)	②貴大学の理念等を実践できた連携事例がありましたらご記入ください。(任意回答、2事例まで)
成城大学	学外から高い評価を得ている活動の一つとして「ピアサポート活動」があります。本学のピア・サポート活動は、学生たちの自律的、主体的な行動を育み、成長する教育機会としても大いに機能しています。2017年度の成城学園創立100周年を機に発足しました。成城大学のピアサポーターは教職学協働を基本理念とし、教員・職員・学生が協力しあい、よりよい大学にしていけることを目標としています。主な活動内容は次のとおりです。 ①ピアサポートルームを拠点とした学習サポート(予習、復習、ノートテイク、要約、図書館活用、文献参照、ディスカッションなど学習技術全般のサポート、パソコンやパソコンソフトの使い方のサポート。) ②講座の企画・実施(レポート作成に関する講座や年度始めの時間割相談会の実施、新入生支援のためのイベント等の企画・実施。) ③授業サポート(※給与支給)(双方向型授業における、教員と学生または学生同士の対話の促進やグループワークを円滑に進めるためのサポート。) ④他大学とサポーターとの連携など(他大学のピアサポーター同士の交流や大学生活全般に関わる自主的活動。) https://www.seijo.ac.jp/education/support/ceri/jtmo42000001co0k.html	成城大学では、2006年から生涯学習支援事業「成城学びの森(コミュニティー・カレッジ、オープン・カレッジ)」をスタートし、大学の持つ知的資産を広く社会に発信してまいりました。地域住民と大学との交流の場として、また、社会人の大学院生、科目等履修生等、発展的な学びの継続の起点となることを目標としています。 「教養講座」を中心とした成城学びの森に加えて、2021年度からは、新たな試みとして、地域と連携したリカレント教育の一環として、成城大学がコーディネートをつとめる「ビジネスキャリアデザイン講座」を開講しています。 世田谷区内の6大学(国士舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、東京都市大学、東京農業大学、成城大学)と、世田谷区が協働・連携している「世田谷プラットフォーム事業」の一つとして始まった、ビジネスパーソン向けの無料オンデマンド講座です。 現在は、オンデマンド講座の配信などを通じ、ご自宅での学びや、隙間時間を活用しての学びを提供できるようになりました。 https://www.seijo.ac.jp/social-activity/lifelearn/
多摩美術大学	●多摩美術大学サーキュラー・オフィス(Circular Office) 美術のあり方を深くとらえなおし、「つくる」ことを基礎におく美術(Art and Design)に、新たな視点として「循環(Circular)」という考え方と実践をかけ合わせる。美の刷新をするべく、サーキュラー思考を備えたユニークな人材を輩出＝「育成」、大学として知見を蓄積＝「研究」、外部プロジェクトへの参画、産学協同プロジェクト＝「実践」を行い、「あらたな価値(幸循環)」を創出すると同時に、来るべき社会や文化をつくり、担い、つくりなおしていく人びととともに活動を展開する。	●循環型社会に向け、産業廃棄物に新しい価値や意味を与える共創プロジェクト「すてるデザイン」 2021年より複数の企業と連携し、サーキュラーエコノミーに向け、社会課題解決型のプロジェクトに臨んでいる。
テンプル大学	教育センター国際理解教育事業における、小学生から成人までを対象とする「英語オンリー」の英語プログラムの実施。	本学アート学科学生による世田谷区ガイドブック表紙デザイン

大学名/質問内容	①貴大学の理念等を実践できた連携事例がありましたらご記入ください。(任意回答、2事例まで)	②貴大学の理念等を実践できた連携事例がありましたらご記入ください。(任意回答、2事例まで)
東京医療保健大学	【学生の参画・地域貢献】 2018年度より公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス「せたがやハウス」に滞在する付き添い入院中のご家族の方に食事支援活動(ミールプログラム)を継続して実施、ボランティアとして学生と共に参加しています。 【地域貢献】 公開講座として、毎年世田谷区に周知等ご協力いただき世田谷区世田谷にあるキャンパスにおいて、広く地域住民を招いて講座を実施しています。	【学生の参画・地域貢献】 その他、医療栄養学科の教員が「栄養・食品に関わる実験を体験して、食事栄養に関心・興味を持ってもらいたい」ということを目的にして、学生と共に三宿小学校を始めとする複数の小学校に年数回訪問し、小学校高学年の生徒に対し理科実験授業を行っています。
東京都市大学	○世田谷区教育委員会との連携協力事業「乳幼児を対象とした文化・芸術体験事業」(覚書を締結)。2019年度から開始。 文化・芸術体験を通じて、子どもの成長、特に非認知能力等の「これからの社会を生き抜く力」の基礎を育む観点から、乳幼児を対象とした文化・芸術体験事業の充実、発展に寄与することを目指している。 ・2023年度 事業実施場所:中町保育園2回、中町幼稚園3回 ・2024年度 事業実施場所:中町幼稚園3回 区内在住の5～6歳を対象とした「親子で粘土工作」の講座を本学世田谷キャンパスにて実施している。	○新・才能の芽を育てる体験学習 平成23年度より参画 ・2023年度 5プログラムを出展 ・2024年度 4プログラムを出展予定(10月～11月開催) ○STEAM教育講座教育講座(教育総合センターと世田谷PFとの連携) ・2022年度 2プログラム出展 ・2023年度 1プログラム出展 ・2024年度 2プログラム出展(世田谷PFは1プログラムのみ) ○せたがやeカレッジ ・動画による講座を2本提供 
東京農業大学	福島県相馬市との地域連携協定による活動 ～東京農大東日本復興支援プロジェクト～ 活動目的:東日本大震災からの農業復興 1. まちづくり及び人づくりに関すること ・農業者を対象とした経営力向上、経営人材育成に関する支援 ・小学生から高校生に渡るシームレスな農業関連の人材育成基盤の構築 2. 自然、環境、産業及び地域振興に関すること ・地域の自然環境の保全活動に関する支援・協力 ・マーケティングを含む地域の農業・林業の活性化に関する支援・協力 3. 教育・研究・文化の発展に関すること ・小学生から高校生に渡るシームレスな農業関連の人材育成基盤の構築 4. 就農及び就職支援に関すること ・地域への就農・就職希望があった場合の積極的な支援 5. 前4号に掲げるもののほか、前条の目的を達成するために必要な分野に関すること 活動内容・成果: 1. 12年間にわたり継続して震災からの農業復興支援を行い、現地での農業が復興すると共に、新たな時代に即した経営体制を構築しつつある。 2. 高校生や社会人向けの人材育成プログラムを展開しており、成果を上げている。特徴的な例として、2019年度に開催した高校生向けサマースクールの参加者が本学の森林総合科学科に入学、その後も2名の高校生が本学に入学し、次世代の地域づくりのリーダーとして期待されている。	教職課程 武田 晃治 教授が「令和6年度 新・才能の芽を育てる体験学習」の講座「ザリガニSDGs～生き物の色や形のふしぎ～」に講師として協力 東京農業大学教職課程 武田 晃治 教授が8月22日(木)、世田谷区教育委員会が主催する「新・才能の芽を育てる体験学習」の講座「ザリガニSDGs～生き物の色や形のふしぎ～」で講師を務めました。 「ザリガニSDGs～生き物の色や形のふしぎ～」は、東京農業大学15号館3階生物学実験室にて、世田谷区内の小学生34名(3・4年生)を対象に開催されました。 体験教室では、生き物の色や形に関する講義のほか、カラフルザリガニから抽出した色素の比較実験やザリガニSDGsのお話、その後は生き物探検ツアーも行われ、参加した小学生らは熱心に取り組み、本体験教室を小学校の自由研究にしたいという児童もいました。 

「持続可能な未来に向けた目指すべき姿」に関する調査回答一覧

大学名/質問内容	①貴大学の理念等を実践できた連携事例がありましたらご記入ください。(任意回答、2事例まで)	②貴大学の理念等を実践できた連携事例がありましたらご記入ください。(任意回答、2事例まで)
日本女子体育大学	「新・才能の芽を育てる体験学習」 世田谷区教育委員会が主催する区内の幼児や児童・生徒を対象としたワークショップを実施し、令和5年度は、「体力・健康」「表現」をテーマに講座実施に協力しました。	「地域交流講座」 大学のもつ専門的、総合的な教育・研究成果を地域の人々に提供することにより、地域社会の発展に寄与することを目的として春期・秋期に地域交流講座を開講しています。
日本体育大学	様々なスポーツに触れて、スポーツをするきっかけ作りとして地域の小学生を対象に、「日体大スポーツフェスタ」を毎年実施している。 このイベントは学生が主体的に運営し、学生の指導力向上や企画運営力向上の一助となっている。	
日本大学 文理学部	科学実験・文化フェアの実施 文理学部キャンパスにおいて、令和6年7月13日(土)に科学実験・文化フェアを開催した。科学実験・文化フェアは、小学生を対象に、様々な学問分野の実験や体験に触れてもらうというイベントである。心理学クイズのような文系の分野から、アンモナイトの化石発掘のような理系の分野まで、多種多様な領域のプログラムは非常に人気が高く、例年多くの小学生と保護者の方に参加いただいている。また、このイベントの運営には、多くの学生も主体的に関わっており、普段学んだ専門知識を社会に対してわかりやすく説明する機会ともなっている。 	新しい産官学連携のあり方を目指し、自主創造力を有する人材の育成 様々な社会的課題の解決に向けて、教育、研究及び産業の調和を目指すことにより、文理融合、産官学における需要と供給の接続を図り、社会的ニーズをシードにつなげていく方法や技術を研究し社会に貢献するとともに、学生を参画させることにより、副専攻的な教育の場を創出し、自主創造力を有する人材の育成に寄与することを目的として「次世代社会研究センター (Research Institute for Next Generation Society)」(RINGS)を令和2年12月23日に設立した。RINGSは、「コミュニティーベース」をキーワードに、学生や教員のほか様々な分野のプロボノ(社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルや専門知識を活かしたボランティア)や企業や行政の担当者と信頼関係を構築し、そこから新たな価値の創出を目指している。 学部や大学を超えて学生と教員と社会人プロボノがコミュニティーベースで活動を展開し、大手企業、ベンチャー企業、地方自治体等とパートナーシップを結びながら、教育、研究・産業が調和した社会課題の解決に向けた実践的な研究を行い、研究成果を発信し企業との共同研究にも発展している。
日本大学 商学部	社会連携センターの役割・機能のひとつである「あきない塾」では、校友、地域住民、企業等の方々に対して、リスキリング、生涯学習、リカレント教育、アントレプレナーシップ教育の機会を提供しています。 事例： 令和6年6月16日開催「ゲームで学ぶ会計学」	特定非営利活動法人 スフィードと産学連携パートナーシップに関する包括協定締結【主たる取り組み事項】 (1)地域住民の健康増進に関すること。 (2)誰もが参加できるスポーツの実施に関すること。 (3)スポーツビジネス及び地域活動者等の人材育成に関すること。 (4)生活課題を抱えた方への支援を含め多様性社会推進に関すること。 (5)その他目的を達成するために必要な事業に関すること。  稲田代表と長谷川商学部長

大学名/質問内容	①貴大学の理念等を実践できた連携事例がありましたらご記入ください。(任意回答、2事例まで)	②貴大学の理念等を実践できた連携事例がありましたらご記入ください。(任意回答、2事例まで)
日本大学 危機管理学部	「世田谷区地域交流ラボ」へ参画し3年目を迎え研究テーマに沿って世田谷区や地域との連携・交流が継続して行われるようになった。 世田谷区ホームページ https://www.city.setagaya.lg.jp/02072/11449.html	
日本大学 スポーツ科学部	公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団のイベントで企画や会場協力を行い地域の小学生を集めて実施した。(添付パンフレット有) 	
明治大学	【世田谷区事例】 ・八幡山グラウンドにおける公開講座の開催 https://academy.meiji.jp/mj/enjoy/experience/ 【他自治体事例】 ・連携講座、学生派遣プログラム、ボランティア活動等 https://www.meiji.ac.jp/social/japan/center.html	

世田谷区内大学（学部）と世田谷区との連携協力実績（令和５年度）の類型

【表１】大学ごとの連携事業数

	大学名	連携事業数	類型（１事業に対し複数選択可）					
			①地域資源の活用	②学生の参画	③大学研究・教育活動	④各種計画策定にかかる調査研究・アドバイス	⑤小・中学生等の学習支援、生涯学習	⑥施設の相互利用
			地理的条件や特産品といった地域資源の活用や社会的課題解決を図る事例など	イベント参加、ボランティア活動、インターンシップなど	防災、福祉、教育分野等、研究・教育活動を活かした取組み	計画策定にかかる委員、各取組みに対するアドバイスなど	通常授業への支援、授業では体験しがたいテーマの学習支援、公開講座など	図書館の相互利用、事業における施設使用協力など
1	国士舘大学	29	6	13	8	2	9	3
2	駒澤大学	32	7	19	10	0	7	5
3	産業能率大学	7	1	3	1	0	2	2
4	昭和女子大学	32	4	18	8	2	5	4
5	成城大学	16	5	6	5	0	5	2
6	多摩美術大学	7	2	1	3	0	4	2
7	テンプル大学ジャパンキャンパス	6	1	3	2	0	4	0
8	東京医療保健大学	7	1	2	3	0	4	1
9	東京都市大学	19	3	7	7	2	6	3
10	東京農業大学	32	7	15	12	1	7	4
11	日本女子体育大学	20	6	9	6	1	3	4
12	日本体育大学	22	4	10	6	2	2	3
13	日本大学 文理学部	17	3	6	3	1	3	5
14	日本大学 商学部	9	3	3	2	0	2	2
15	日本大学 危機管理学部	4	0	3	0	0	1	0
16	日本大学 スポーツ科学部	4	0	2	2	0	1	0
17	明治大学	6	1	5	1	0	0	1
計		※ 269	54	125	79	11	65	41
			20.1%	46.5%	29.4%	4.1%	24.2%	15.2%

※同一事業を複数大学で実施しているため、重複を除いた事業数は１１７事業

- 連携事業の類型は「学生の参画」が全体の46.5%を占めており、次いで「大学教育・研究活動」（29.4%）、「小・中学生等の学習支援、生涯学習」（24.2%）となっている。これは大学の目的が「学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させる」（学校教育法第５２条）ことから、学生の学びの場として地域とともに実践し、研究内容を還元していることが見て取れる。
- 連携事業全体の65.0%が５年以上継続して取り組まれている。残り35.0%について、令和4年度以降「学生の参画」、「大学教育・研究活動」の順で新たに実施されている。これは新型コロナウイルス感染症対策を講じた取組みが一定程度見えてきたこと、教育総合センターの設立が影響していると考えられる。
- 区と包括連携協定を締結している大学と締結していない大学とでは、締結している大学の方が連携事業数は多い。締結大学には社会連携を所管する部署があることが共通点としてみられる。また、協定が連携継続や新規実施の担保となることが考えられる。

世田谷区内大学（学部）と世田谷区との連携協力に関する実績（令和5年度）

※終了している事業もあります。

No	類型						事業名	事業概要	連携・協力先（区内大学）																	
	①地域資源の活用	②学生の参画	③大学研究・教育活動	④各種計画策定にかかる調査研究・アドバイス	⑤小・中学生等の学習支援、生涯学習	⑥施設の相互利用			国士館大学	駒澤大学	昭和女子大学	成城大学	東京都市大学	東京農業大学	産業能率大学	多摩美術大学	東京医療保健大学	日本女子体育大学	日本大学文理学部	日本大学商学部	日本大学危機管理学部	日本大学スポーツ科学部	日本体育大学	明治大学	ジャパンキャンパス	
	地理的条件や特産品といった地域資源の活用や社会的課題解決を図る事例など	イベント参加、ボランティア活動、インターンシップなど	防災、福祉、教育分野等、研究・教育活動を活かした取組み	計画策定にかかる委員、各取組みに対するアドバイスなど	通常授業への支援、授業では体験しがたいテーマの学習支援、公開講座など	図書館の相互利用、事業における施設使用協力など																				
1		○					駒沢ふれあい広場実行委員会	駒澤大学で7月に行なわれる、駒澤大学夏祭りの実行委員会に地域住民、世田谷区職員が出席し、地域の意向も反映したお祭りを実施。		○																
2		○					地域環境美化清掃活動	青少年経堂地区委員会、経堂地区身近なまちづくり推進協議会、経堂地区社会福祉協議会が共催で実施する清掃活動。 経堂駅・千歳船橋駅を起点に、8コースに分かれて馬事公苑前けやき広場までを清掃。 東京農業大学生がボランティアとして参加し、地域の方と交流しながら清掃活動を行う。					○													
3	○	○					下北沢音楽祭	下北沢音楽祭の催し物の一環としてライブハウスでの演奏の場を提供するとともに、その他の催し物の準備・運営・片付けに学生が参加している。				○											○			
4		○					せたがや梅まつり	梅まつりの催し物の一環として、舞台において大学の落語研究会の発表を実施している。				○		○												
5		○					八幡中学校避難所運営訓練	産業能率大学の学生が避難所運営訓練のスタッフとして参加している。訓練を通して大学生が町会・自治会やPTA、中学生と交流し、防災組織の一員として、地域に貢献している。						○												
6		○					古着・古布回収	着なくなった衣類等を回収し、資源のリサイクルを推進・可燃ごみの減量を図る、深沢地区古着・古布回収事業に運搬・積込作業補助員として学生ボランティアを募り、町会委員、世田谷区職員と協力することで、世代間を超えた交流を図る。														○				
7	○		○				烏山地域キャラクター「からびょん」による地域活性化事業	平成25年度に作成した烏山地域のキャラクター「からびょん」を積極的に活用した事業（着ぐるみの派遣やからびょんダンス等）を日本女子体育大学ダンス・プロデュース研究部と連携し、地域の活性化や交流を目的として展開している。今後、大学と連携しさらなる地域活性化を目指すcommunity danceを長期にわたり実践していく。								○										
8		○					地区防災フェアへの参加協力	「上北沢地区防災フェア」に学生がボランティアとして参加。ブースの運営時補助等を行うことによって学生の防災意識の向上や、地域とのつながりの醸成を図る。															○			
9	○	○					せたがや国際メッセ	多文化共生社会構築に向けた今後の取組みについて考えるきっかけづくりとして、多文化を知り・触れる機会である国際交流イベント。 留学生が参加し、ステージイベントや英会話を通じ、区民との交流を図る。			○	○	○	○				○								

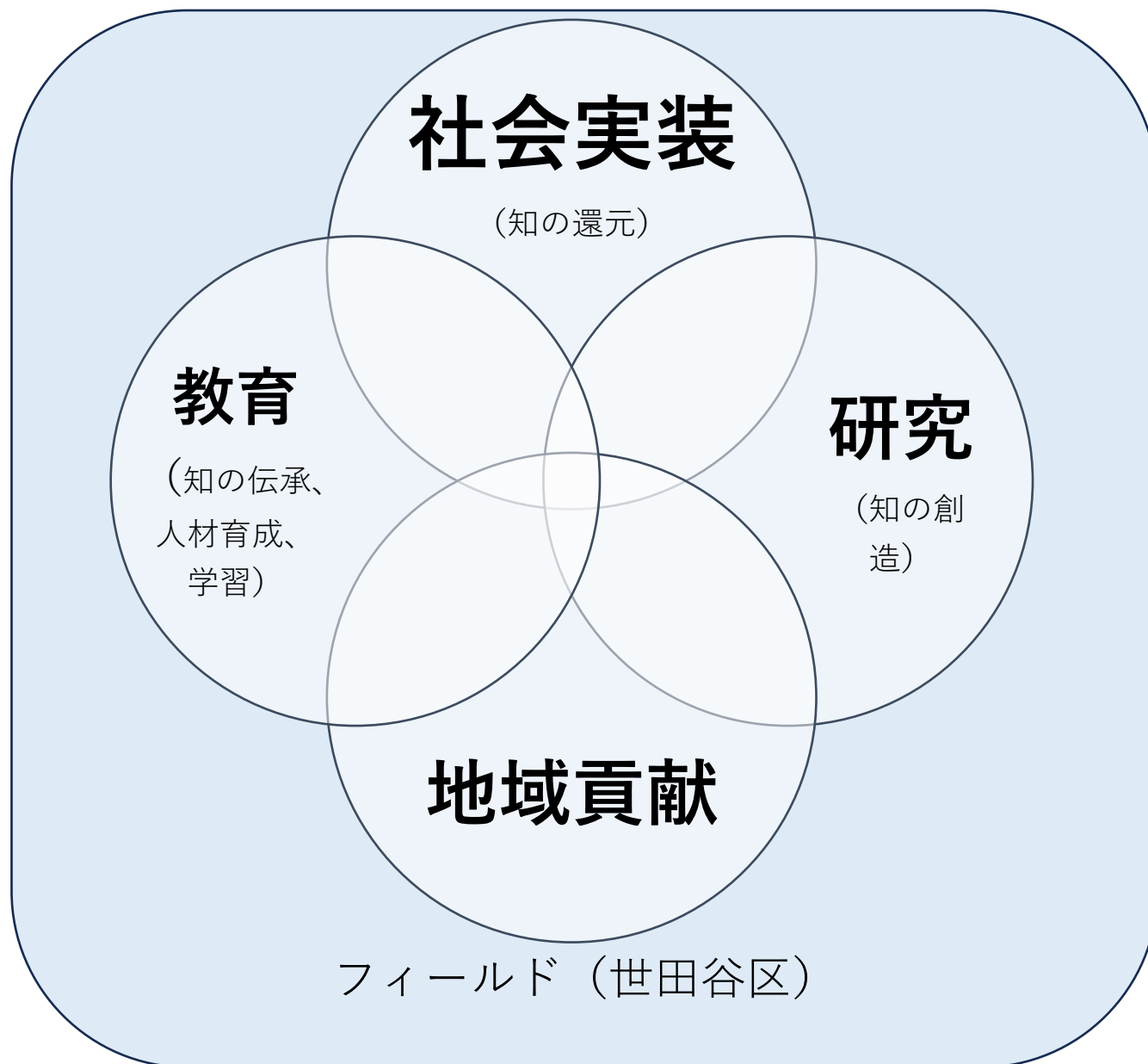
[illegible]

No	類型						事業名	事業概要	連携・協力先（区内大学）															
	①地域資源の活用	②学生の参画	③大学研究・教育活動	④各種計画策定にかかる調査研究・アドバイス	⑤小・中学生等の学習支援、生涯学習	⑥施設の相互利用			国士館大学	駒澤大学	昭和女子大学	成城大学	東京都市大学	東京農業大学	産業能率大学	多摩美術大学	東京医療保健大学	日本女子体育大学	日本大学文理学部	日本大学商学部	日本大学危機管理学部	日本大学スポーツ科学部	日本体育大学	明治大学
	地理的条件や特産品といった地域資源の活用や社会的課題解決を図る事例など	イベント参加、ボランティア活動、インターンシップなど	防災、福祉、教育分野等、研究・教育活動を活かした取組み	計画策定にかかる委員、各取組みに対するアドバイスなど	通常授業への支援、授業では体験しがたいテーマの学習支援、公開講座など	図書館の相互利用、事業における施設使用協力など																		
37						○	世田谷区たまがわ花火大会	世田谷区たまがわ花火大会時の観客の臨時駐輪場として東京都市大学総合グラウンド及び駒澤大学玉川校舎を借用している。		○				○										
38						○	世田谷区たまがわ花火大会	世田谷区たまがわ花火大会時の障害者等観覧スペースとして駒澤大学玉川校舎を借用している		○														
39	○					○	水防	野川・仙川氾濫による鎌田一、二丁目周辺水害発生時の避難所として駒澤大学玉川校舎体育館を開設する。		○														
40	○	○					歩きぬた魅力アップ推進事業	砧総合支所管内の大学・専門学校と区民の協力を得て、砧地域の見どころを紹介するウォーキングマップ「Tohode」の日本語版及び英語版を作成し、併せてウォーキングマップの見どころを解説する冊子（日本語版のみ）を作成。また、大学生、専門学校生を主な出演者とする、地域の見どころ紹介動画も作成。		○		○							○					
41			○				土と農の交流園通年講座・公開講座	野菜づくり等を通して高齢者が土に親しむ場を提供することで、その余暇活動の充実を図るとともに、地域住民及び世代間交流の場を確保し、豊かな地域社会形成に寄与することを目的として、東京農業大学グリーンアカデミーの企画による、園芸に関する講座を実施。						○										
42						○	世田谷区立男女共同参画センター利用者の昭和女子大学図書館の利用に関する覚書	男女共同参画センター図書館利用者で、男女共同参画センター内に利用を希望する資料が所蔵されていない場合、昭和女子大学図書館内に所蔵されている資料を閲覧・複写することができる。			○													
43						○	新成人のつどい	世田谷区民会館改修工事に伴い、新成人のつどいを日本大学文理学部百周年記念館に変更。開催するにあたり、百周年記念館及び大学敷地内を借用。									○							
44						○	せたがやふるさと区民まつり	せたがやふるさと区民まつりの区役所周辺での開催に伴い、国士館大学の敷地（正門前付近・メイプルセンチュリーホール前）の使用及び後援	○															
45	○						ボランティアマッチングセンター等に関する協定書	平成27年3月に世田谷区、世田谷ボランティア協会と締結した「災害時における協力体制に関する協定書」に基づき、災害が発生した際に、ボランティアマッチングセンター等を大学施設に設置する。また、平常時において、連携を図る。 ①災害発生時における協力の在り方に関する研究 ②連絡会の開催 ③教職員、学生に対する防災に係る啓発 ④円滑な施行に資する	○		○						○		○			○		
46	○					○	福祉避難所（母子）	災害が発生した場合に、妊産婦・乳児の安全確保のため、区の要請に基づき、協定を締結している私立高校、大学において福祉避難所を開設する。また、平常時において、区と協定団体の意見交換会、講演会及び図上訓練（グループワーク）を実施。			○			○								○		

No	類型						事業名	事業概要	連携・協力先（区内大学）																	
	①地域資源の活用	②学生の参画	③大学研究・教育活動	④各種計画策定にかかる調査研究・アドバイス	⑤小・中学生等の学習支援、生涯学習	⑥施設の相互利用			国士館大学	駒澤大学	昭和女子大学	成城大学	東京都市大学	東京農業大学	産業能率大学	多摩美術大学	東京医療保健大学	日本女子体育大学	日本大学文理学部	日本大学商学部	日本大学危機管理学部	日本大学スポーツ科学部	日本体育大学	明治大学	テンプル大学ジャパンキャンパス	
	地理的条件や特産品といった地域資源の活用や社会的課題解決を図る事例など	イベント参加、ボランティア活動、インターンシップなど	防災、福祉、教育分野等、研究・教育活動を活かした取組み	計画策定にかかる委員、各取組みに対するアドバイスなど	通常授業への支援、授業では体験しがたいテーマの学習支援、公開講座など	図書館の相互利用、事業における施設使用協力など																				
74		○					保育実習受入事業	保育士資格取得を目指す学生を受け入れ、区立保育園で保育実習を行う。			○		○				○	○					○			
75		○					外食の栄養成分表示推進	区民の健康づくり推進の一環として、飲食店などに対して外食の栄養成分表示や食や健康に関する情報提供を行っている。学生が参加しワーキング形式により、食や健康に関する情報を掲載した飲食店などに配るポスターの作成実績あり。			○			○												
76			○	○			三軒茶屋駅周辺のまちづくり	三軒茶屋駅周辺において、広域生活・文化拠点として、にぎわいと活気に満ちた魅力ある拠点づくりに取り組んでいる。区民、事業者、大学など様々な主体が連携してまちづくりに取り組むため、令和4年3月に「三茶のミライ（三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画）」を策定し、官民学連携によるソフトとハードが一体となったまちづくりに取り組んでいる。	○		○		○													
77		○	○				せたがやガーデニングフェア	学生による見本庭園の作成・展示（1区画約10㎡）を行っており、見本庭園の作成・展示及びイベントへの参加を通して、大学で学ぶ造園技術の実践・習得を図り、また発表PRの機会を設ける。						○												
78		○					教職実践演習（現地演習）	教員採用試験に合格し、卒業後教職に就く予定の学生に対して、教員として最小限必要な実践的指導力を育成するための現地演習を区立学校にて受け入れる。						○												
79		○					栄養士養成施設校外実習生受入れ	給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を修得させるための実習を区立学校にて受け入れる。			○			○												
80			○	○			体育指導力向上協力校	校内研究や通年の授業改善に関する相談・支援を体育指導の専門家（大学教授）から受けることを通して、区内学校の教員の体育指導力向上を図る。また、体育授業が苦手な教員の指導力向上を推進することによって、児童の更なる体力向上、健康推進を目指す。														○				
81				○			世田谷ガリレオコンテスト	区立中学校において、豊かな発想と創造力に富んだ夢のある研究を広く募集し、コンテストによる発表を通して、より研究を深め、区立中学生の科学への興味や関心を高めるとともに、科学を学ぶ喜びや意欲を育てる。大学教員による審査、講演あり。					○	○												
82		○					スクールソーシャルワーク実習受け入れ	スクールソーシャルワーカーの育成を目的とし、社会福祉学科実習生を世田谷区教育委員会にて受け入れ。										○								
83		○					スクールカウンセラー実習生受入れ	心理学専攻の学生を区立小・中学校スクールカウンセラーのもとに実習生として受入。										○								

[illegible]

今後の連携テーマについて



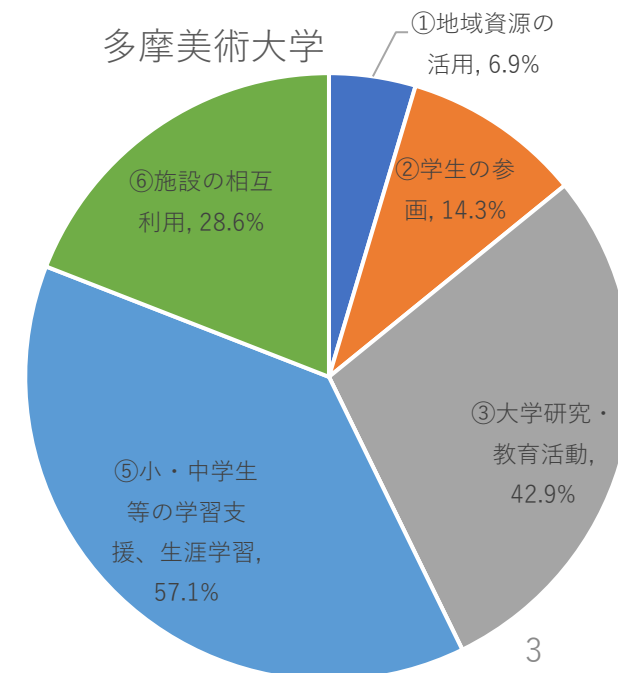
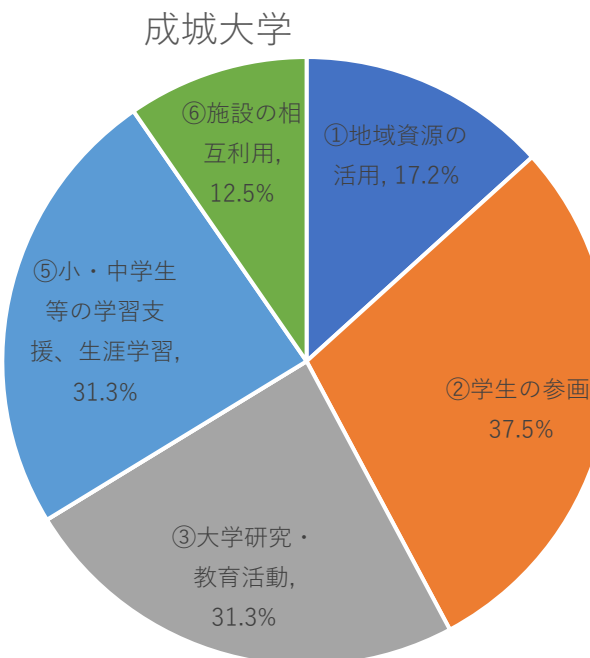
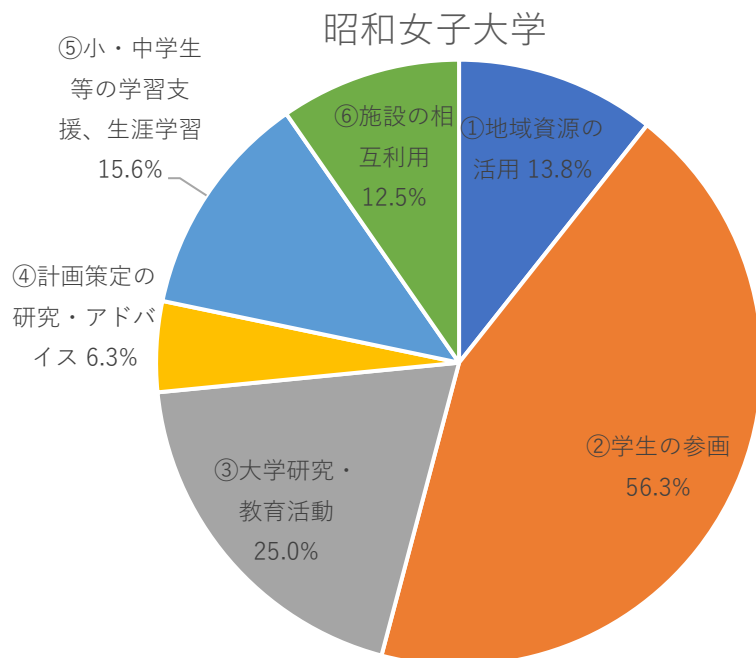
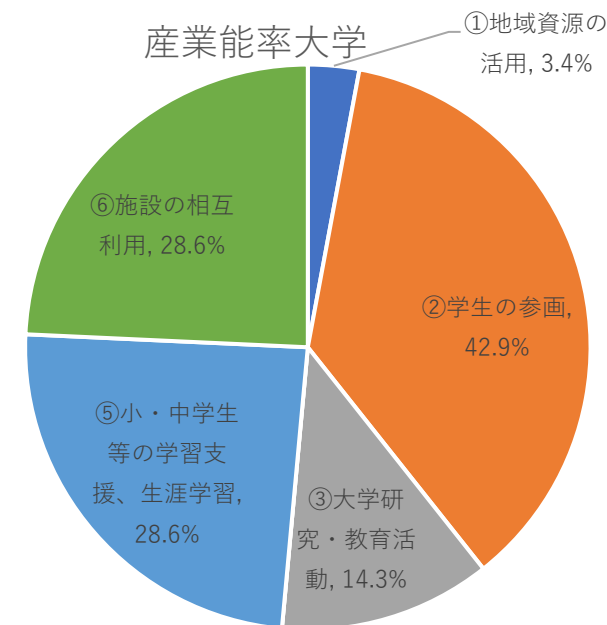
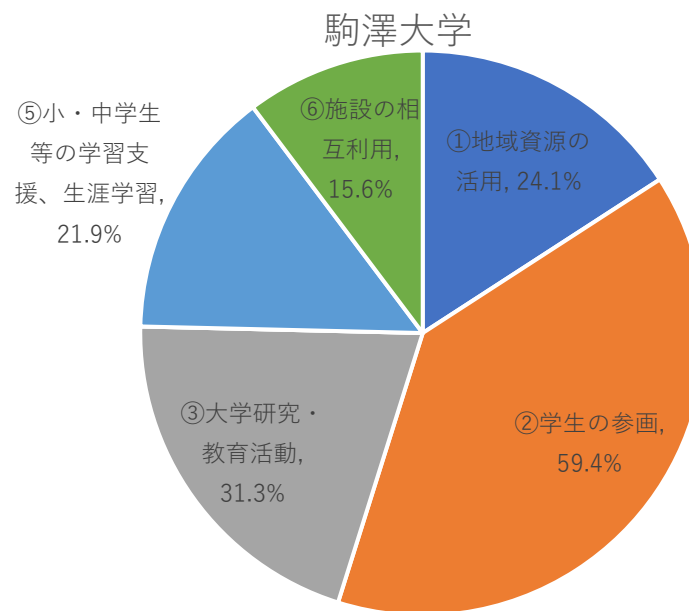
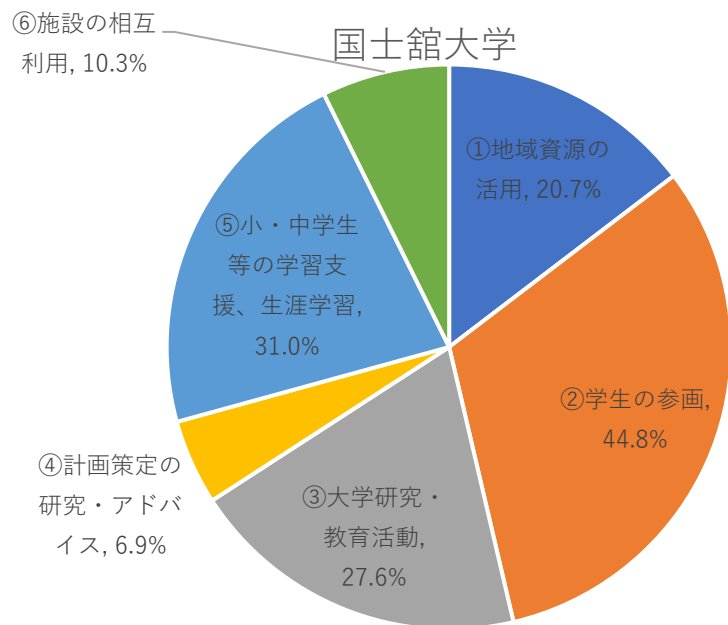
大学と区との共通点

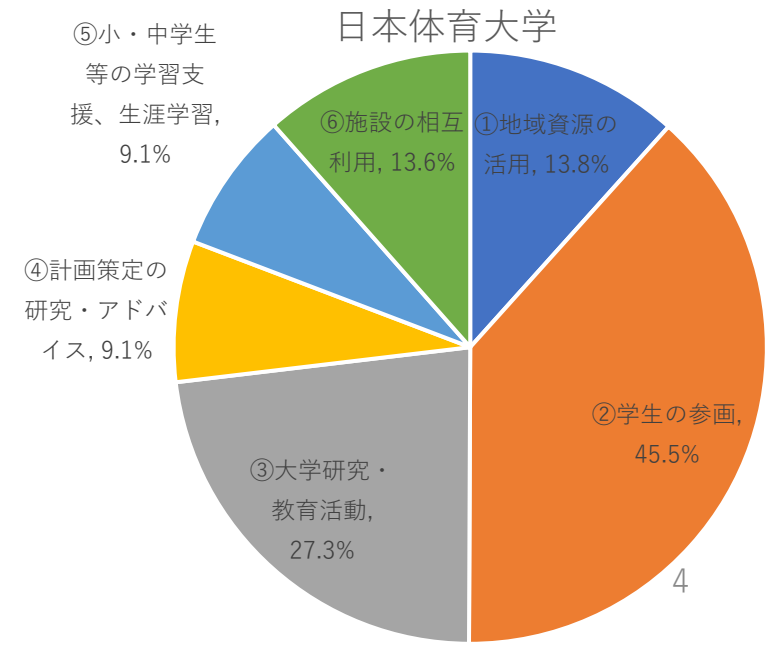
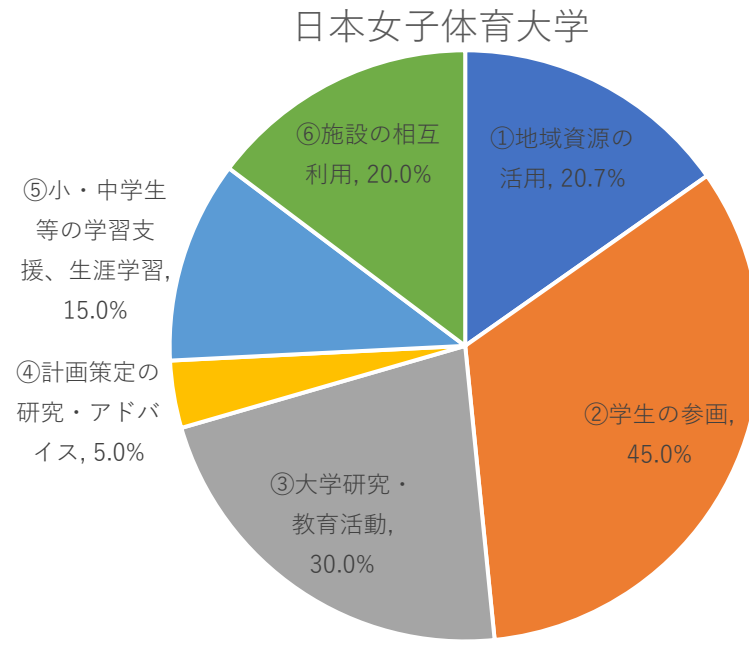
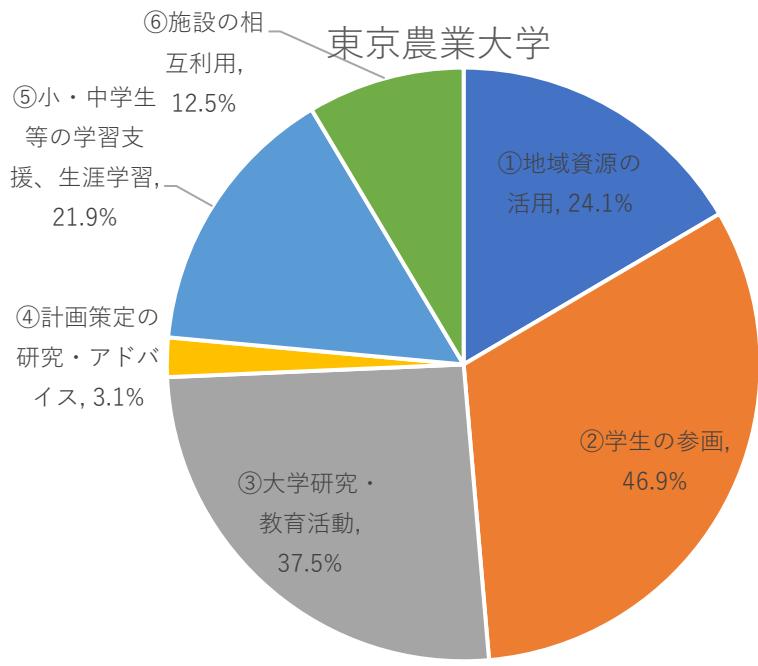
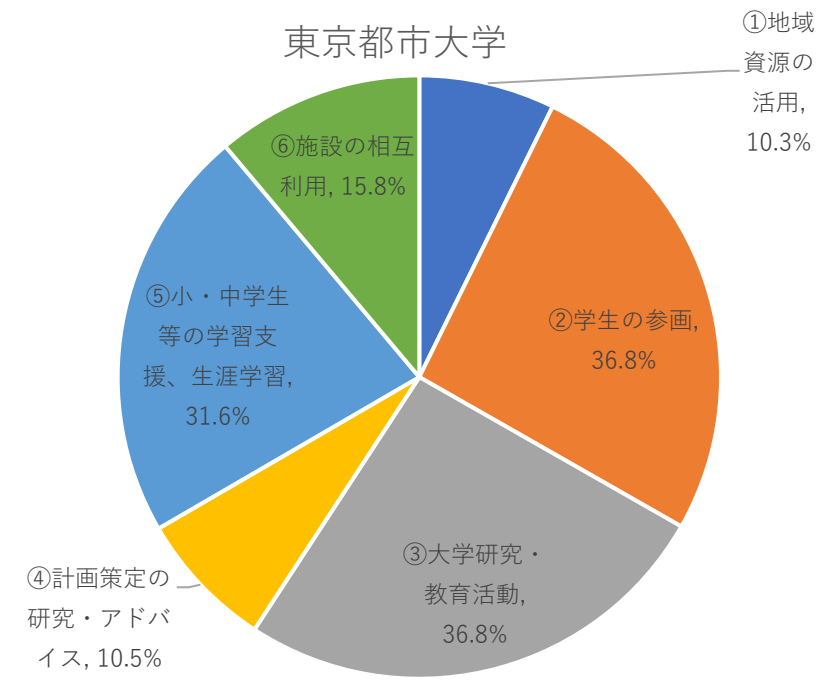
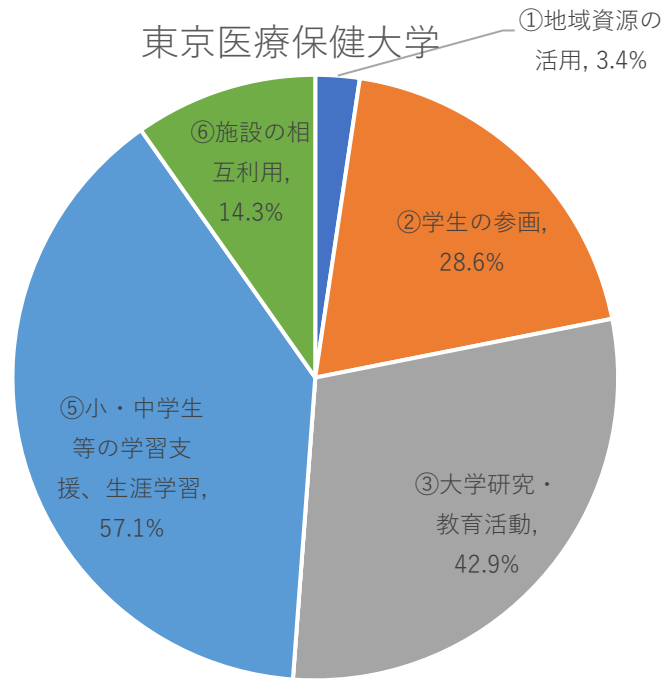
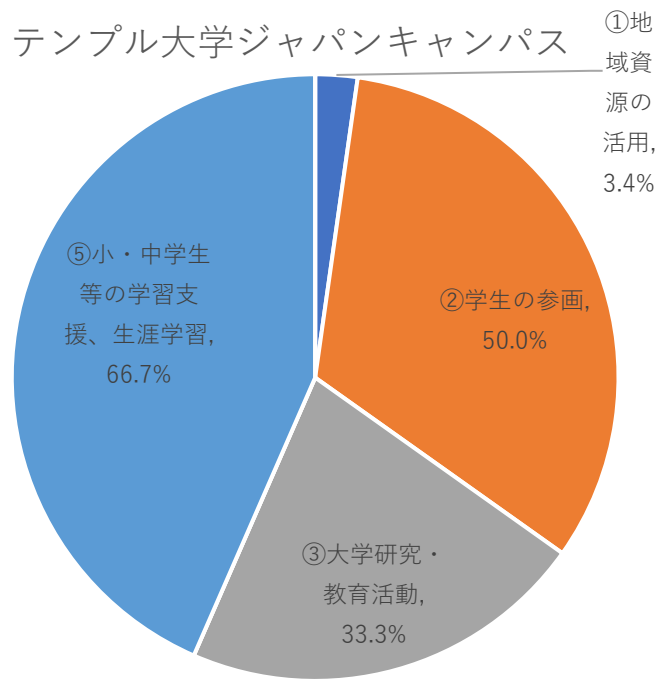
- 将来の予測が困難な時代において生き抜く力を備えた人材を育成していく
- 多様な人々及び地域と関り、つながることで様々な経験を蓄積することの重要性
- 地域社会の課題とその解決・実践に焦点をあてた研究等の取組みの重要性

今後の連携テーマ（案）

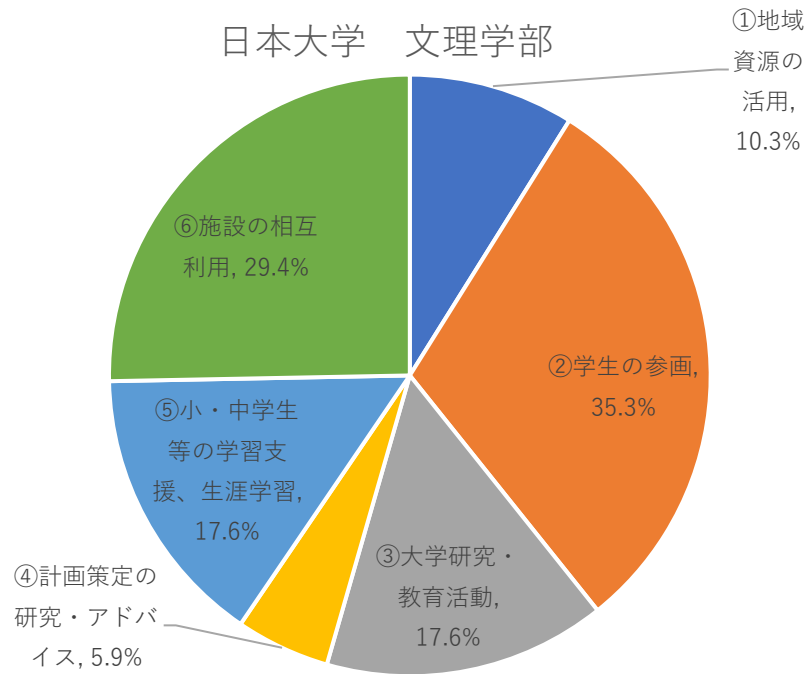
- 脱炭素地域づくり
- スポーツを楽しむ環境づくり
- 教育の質の向上
- 学生の知識実践による地域課題の解決

	連携テーマ（案）	目指す姿	研究	教育	社会実装	地域貢献
1	脱炭素地域づくり	家庭部門の脱炭素化のため、区民一人ひとりの意識や暮らしの変容を促し、効果的に脱炭素に取り組んでもらう環境をつくる。	●		●	
2	スポーツを楽しむ環境づくり	大学や民間事業者との連携を図り、シーズやノウハウを活用することで、より良いスポーツの事業・場の提供を実現する。		●	●	●
3	教育の質の向上	好奇心やコミュニケーション能力など数値で測ることができない非認知能力を伸ばすための仕組みづくり。	●		●	
4	学生の知識実践による地域課題の解決	大学生が考える新鮮で具体的な提案を区政課題解決に活かすことで、若者と地域と一緒に創っていく。		●	●	

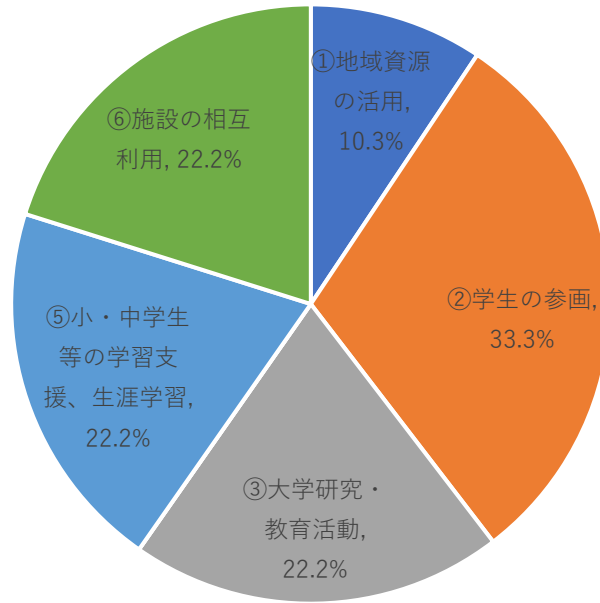




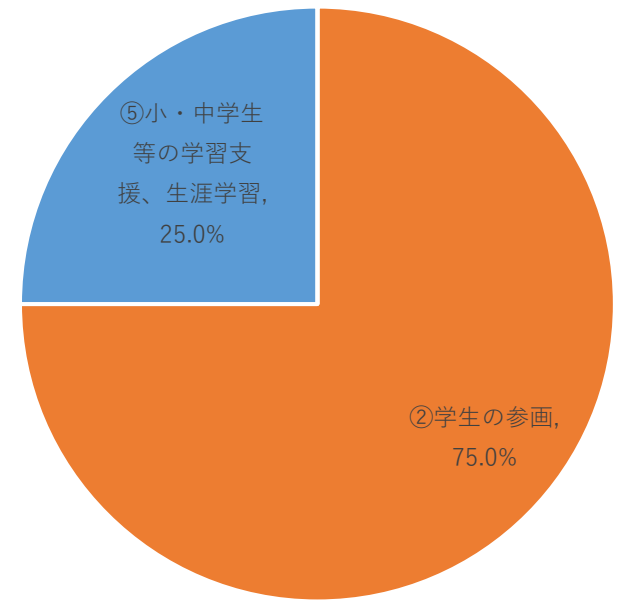
日本大学 文理学部



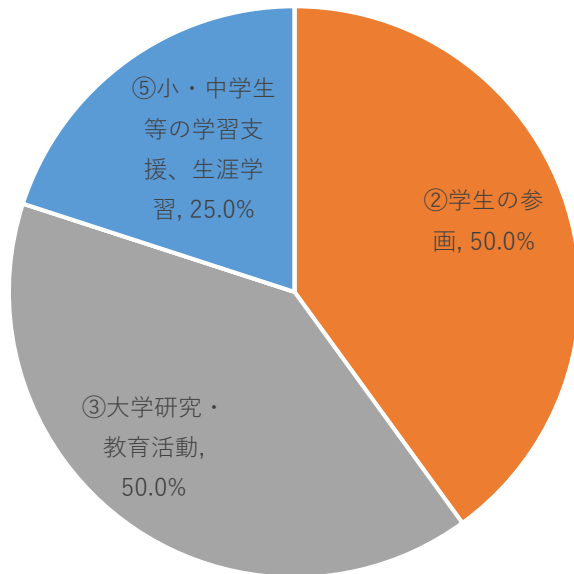
日本大学 商学部



日本大学 危機管理学部



日本大学 スポーツ科学部



明治大学

